

新しい職場体験「益田のひと・仕事発見テイス」生徒面接の様子 緊張の面持ちで面接を受ける生徒たち



教育委員会だより

益田市教育委員会より 平成28年11月17日発行

第3号

ふるさと教育・ライフキャリア教育で「生きる力」を！

教育委員 永田 千秋

教育委員となつて、今年12月で4年の任期を終えます。この間、いろんな人との出会いや学びを体験し、現場とは違う行政の立場から益田市の教育に関わりを持つことができました。お世話になった方々に心から感謝いたします。

さて、益田市教育委員会では、昨年「教育に関する大綱」を策定し、益田で生まれ育つた子どもが再び益田で活躍できる環境の整備や教育に取り組むことに力を入れていきます。その中でも特に「ふるさと教育」と「キャリア教育」の推進による人材育成は、地域と学校が連携を深めて、子どもを育てる重要な観点だと思えます。

先日、「秦佐八郎博士出前講座」で中西小学校に行きました。4年生の児童に益田で自慢できる「ひと

「もの」「こと」を質問すると、すぐに「中垣内の棚田」「大道山」と答えてくれました。児童たちは、我が地域の素晴らしさを誇りに思い、ふるさとへの愛着を持っていることが分かりました。

また、高津中学校では、ライフキャリア教育の一環として「益田版カタリ場」が実施されました。地元で活躍している大人の方が、中学生に自らの体験を語っておられました。中学生は、目を輝かせながら真剣に話を聞いていました。夢や目標を持つことの大切さに気付き、自分の将来を見つめ直すきっかけとなった時間であったように感じました。

市内の学校では、それぞれの地域の特色を生かした取組がなされていることと、思います。その際に、知っ

ているように知らない地域の「ひと」「もの」「こと」を教員も共に学ぶ姿勢を持ち、地域の方々の力を借りながら、実際に子どもたちの五感を通して発見と学びの体験をさせていくことが大切だと感じています。

高津川の若鮎は自らの命と役割を全うするため生きるさとの川を上っていきまします。そのように益田の子どもたちも地域の歴史・文化・人から学んで、愛着と誇りを持ち、より広い視野で自らの生き方を考えてほしいと思います。ふるさと教育と一体化したライフキャリア教育の取組が、更に充実し、広がっていくことを心から願っています。



新しいALITを紹介します！

この夏より1名の新しいALIT（外国語指導助手）を迎えました。今回は新しく迎えたALITをご紹介します。

○名前 チェン・ヴィヴィアン・グオ

○指導校

益田小、高津小、桂平小、都茂小、東仙道小、高津中、西南中

○本人からのコメント

皆さん、こんにちは！外国語指導助手のチェン・ヴィヴィアン・グオと申します。ヴィヴィアンと呼んでください。

中国系アメリカ人で、出身はオハイオ州のコロンバス市です。今年の5月にケース大学を卒業し、国際研究と日本研究を専攻しました。趣味は旅行とハイキングと読書です。語学も好きなので、日本で日本語の勉強をし続けたいと思います。



す。大学時代に剣道をやっていました。

去年の秋、ホストファミリーと暮らしながら、東京に留学しました。それで、留学している時に神奈川県にある高校でインターシップとして英語の授業で手伝っていました。インターシップは面白く、英語を教えるのに興味を持つようになりました。そして、JETプログラムに入って、また日本で英語を教えることができるとてもうれしいです。生徒たちのために英語の授業を楽しくするように一生懸命頑張ります！よろしくお願ひします。

奨学金制度を活用し、進学された方からのメッセージ

益田市奨学金は、向学心に燃える子どもたちの将来を支える一つの制度です。この制度を活用した方からメッセージを頂きましたのでご紹介いたします。

☆ ☆ ☆
私は、高校進学のために奨学金制度を利用させていただきました。

私の進学を希望した高校は私立高校だったので、兄弟の多い私の家は私立に進学することが難しかったのですが、奨学金を受けられたおかげで、希望した高校に進学することができました。

高校では新しい友人と共



に多くのことを学び、良い学生生活を送ることができました。

私が良い高校生活を送れたのは地域の皆様のおかげであることを心に社会人となった今、高校などで今まで学んできたことを活かして地域に貢献したいと思っています。

地域に貢献し、地元を盛り上げることで少しでも奨学金として寄附金を出してくださった地域の方々に恩返しができると思っています。（文・匿名希望）

☆ ☆ ☆

私が奨学金を受けることになったのは、家庭の経済的理由によるものでした。奨学金のおかげで高校では心配することなく勉学や部活動に励み、充実した高校生活を過ごすことができ、無



事に卒業することができました。たくさんのことを学べたおかげで、益田市内で希望していた職業に就職することができました。奨学金がなければかなわなかったかもしれない。奨学金を頂けるだけでも、とてもありがたいことだと思いました。

また、今回は市内に就職したことで、返還が半額になったことで経済面でも大変助かっています。

奨学金を利用させていただき、良かったと思ひ感謝しています。少しでも益田市に貢献できるように頑張っていきたいと思ひます。（文・匿名希望）

「益田のみりよくまるごと確認テスト」を実施します！

社会教育課は、今年度から「益田のみりよくまるごと確認テスト」を実施します。このテストは、益田の「ひと」「もの」「こと」について書かれた「益田ふるさと物語」を基に問題を作成しています。

益田市教育委員会は、市内の全小学4年生に、毎年「益田ふるさと物語」を配布しています。この本について子どもたちがもつと興味を持ち、自らが見たたり聞いたりするを通して、益田に魅力を感じてほしいと思っています。

昨年度までは、「益田ふるさと物語」から出題される「益田ふるさと検定」を実施していましたが、検定の問題は大変難しく、合格率もなかなか伸び悩んでいたのが実態でした。

そこで、もつと子どもたちが学んだ成果を十分に発

揮し、どの程度知識が身に付いたのかを確認することができるとして、この「益田のみりよくまるごと確認テスト」を実施します。

小学4年生から6年生までは、各学年において身に付けてほしい内容を、中学生については、全ての学年で統一した内容のテストを作成しています。それぞれ1単位時間で回答と自己採点ができるテストとなっています。

このテストを通して、小学生には、「もつと益田について知りたいな」「益田にはこんなところがあるんだ」と感じてほしい、益田に興味を持ってほしいと思えます。また、中学生には、「益田にはたくさんの魅力があるんだ」「益田は想像以上に歴史のあるまちなんだ」と感じてほしい、

益田に関する知識を身に付けてほしいと思います。そして、益田の魅力を子どもたちが自ら発信することができるようしていきたいと考えています。

今後の益田市の発展における重要な要素のひとつである「ひとづくり」につながる取組となっていますので、このテストを通して、益田市の子どもたちの益田に対する郷土愛を育み、益田市の将来を担う「ひとづくり」を進めていきます。



益田ふるさと物語

「小川家木地屋文書」を紹介しています

明治頃まで、ろくろを使って材木をくりぬき、椀や盆などを製作していた人々がいました。彼らのことを木地屋と呼びます。彼らは、良材を求めて諸国の山々を渡り歩き各地を転々とするので、迫害に遭うこともありました。そのような時に彼らが権利を主張するために所持していたのが木地屋文書です。

木地屋文書には、文徳天皇の第一皇子惟喬親王が近江国（現在の滋賀県）の山中に住まい、その周辺の人々が、材木を加工することを生業として朝廷から認められたという縁起などが記されています。

小川家木地屋文書は、匹見で活動していた木地屋が所有していた文書です。この文書からは、①匹見においても木地屋が江戸時代から活動していたこと、②匹



見の木地屋も木地屋文書活動の寄りどころとしていたこと、などが分かり、大変貴重な史料と言えることから、平成6年に当時の匹見町の指定文化財となり、現在は益田市指定文化財となっています。

その小川家木地屋文書が、匹見上公民館において11月27日まで展示されています。貴重な史料を間近で見られる良い機会ですので、是非ご覧ください。

食物アレルギー対応食の提供が始まる！

高津学校給食センターでは、食物アレルギー実施基準に基づいて、2学期から食物アレルギー対応食の提供をスタートしました。

実施基準として、①医師により、食物アレルギーと診断されていること、②アレルギー（原因物質）が特定されており、食事療法を指導されていること、③家庭においても食事療法を実施していること、④保護者、学校、調理場は、定期的に面談し、対応を検討すること、⑤アナフィラキシーの既往歴がある場合、学校での安全確保ができるまでの間、除去食は提供しないこと、⑥学校と教育委員会

は、児童生徒の心身の発達を促進するため、今後の食物アレルギー対応が家庭との十分な連携と協力関係の下、与えられた条件の中で最大の効果を生むよう努力していくこと、の6項目を定めています。



八宝菜の場合

給食センターでは、専門の調理員を配置した「アレルギー調理室」を設けています。初めてのアレルギー対応ということもあり、安全・安心を最優先し、現時点では、対応食として「卵の除去食」を提供しています。

例えば、「八宝菜」なら「うずら卵」を、「バンサンスー」なら「錦糸卵」を、「かきたま汁」なら「とき卵」を除いたものを提供します。誤配、誤食のないよう当面水曜日を「除去食の日」とし、給食センター、学校、保護者、児童生徒各々に意識付けをしています。

実施前には、実際に除去食を調理し、提供予定校へ配送の上、学校内での受渡し手順の確認も併せて、シミュレーションを行いました。



専用の食器と個別の保温容器に入れ配送します



卵除去の表示と受渡表をコンテナに貼って配送します

保護者、教職員の方々の協力をいただきながら、今日まで安全に児童生徒の皆さんにお届けできています。これからも安全に提供を続けていけるよう、学校給食に関わる者全員、気を引き締めて職務に携わっていきます。

寄附・寄贈のお礼

益田市奨学金に寄附

- ・東町 故 佐々木 迪 様
- ・高津二丁目 故 林 秀輔 様
- ・徳栄建設災害防止協議会地域創造委員会 様
- ・社会福祉法人梅寿会 様
- ・国際ソロプチミスト益田 様
- ・茶道裏千家淡交会石見青年部 様

子育てはっぴータイム事業に寄附

- ・徳栄建設災害防止協議会地域創造委員会 様

益田市立図書館に図書寄贈

- ・公益社団法人益田法人会 様

益田市に図書寄贈

- ・松江市 池野 誠 様

職員の異動がありました

平成28年10月1日付人事異動による新任職員を紹介いたします。



匹見分室 室長補佐

中島 里美

よろしくお願ひします。